

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173800350		
法人名	有限会社静内ケアセンター		
事業所名	グループホームほほ笑みハウス		
所在地	日高郡新ひだか町静内中野町2丁目12-2		
自己評価作成日	平成27年2月15日	評価結果市町村受理日	平成27年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0173800491-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0173800491-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>特に力を入れている点・アピールしたい点</p> <p>①利用者様が持っている力を引き出す環境を用意している。</p> <p>②ご家族と共に利用者様を支援している。</p> <p>③安心安全に過ごして頂く為医療機関と密に連携している。</p> <p>④自分以外はすべてがお客様と思っている。</p> <p>⑤利用者本意(意思・希望・願い)と利用者本位(プロとしての利用者の立場にたった支援)のケア</p> <p>⑥職員のチームワークを大事にしている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」は、自然の豊かな住宅地にあり、周囲には同一法人の共同生活「支援ハウス」などがある。開設13年目に入り、利用者は散歩や静内神社祭りに参加したり、花見や買い物ツアーを楽しむなど地域に溶け込んで暮らしている。法人事業所合同の夏祭りには町内会役員、行政担当者、医療関係者、中学生、高校生、ボランティア、近隣住民が参加しており、地域に開かれた事業所として住民との関わりを大切にしている。避難訓練では住民の参加を得て火災以外の地震・津波を想定した訓練も行い、法人全体で防災対策を整備している。グループホームで看取るのが自然という代表者の考えが職員にも浸透しており、協力医療機関の主治医や看護師の下で看取りケアも行っている。代表者、法人役員、管理者は職員の育成に力を注ぎ、定期的な社内研修や外部研修などを計画的に行い、職員の資質向上や自主的な関わりが業務に活かされるように配慮している。職員は常に笑顔で利用者の思いに沿って対応し、誕生日には出張握り寿司でお祝いをしたり、外気浴をしながら焼き肉や流しそうめんなどの食の楽しみを提供している。事業所全体が明るく、温かな雰囲気である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示し全員で共有している。その他にホーム独自の10ヶ条を毎朝唱和しケアに反映させている。	法人共通のケア理念のほか、事業所独自の「ほほ笑み10ヶ条」の中に、地域住民として活動に参加する内容があり、文言を継続して共有している。ケアの中で気になる時はミーティング時に確認し、理念や10ヶ条を意識して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の夏祭りに参加したり、事業所で行う夏祭り、クリスマス会に来て頂いているき、避難訓練お協力もして頂いています。	静内夏祭りの阿波踊りに、車椅子使用の利用者も踊りながら職員と一緒に進んでいる。地域のボランティア訪問で年1回お茶会がある。また年間を通して利用者の誕生日にはハーモニカ演奏や民謡の唄と踊りもあり利用者は余興を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの認知症サポータ講座を開き地域の方へ理解を広げる場に活かしている。事業所には24時間対応の相談窓口があり当営業所以外のサービスも必要に応じ紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回、自治会、地域包括支援センター、ご家族、民生委員の方々に参加して頂き、率直な意見を頂いている。会議内容の資料は毎回ご家族へ送付している。	夏祭りとクリスマスの行事に合わせて同一法人グループホームと合同で会議を行い、4回は独自で開催している。各報告のほか、防災訓練での意見を参考にしている。会議によっては4～5名家族の参加もあるが、町内会代表の欠席も見られる。	会議に町内会長が参加できない時は、役員の交代などで地域住民代表として毎回参加が得られるような働きかけを期待したい。各会議案内にテーマを記載し、参加できない家族の意見も会議に反映できるように期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議以外にも連絡を密に取り、歯科、栄養など社内での研修を行って頂きサービスの質の向上に取り組んでいる。	専門職員の講師を依頼した法人研修に職員も参加して、口腔ケアや栄養食などを学びケアに活かしている。管理者は町の担当者に書類等を確認したり、認知症サポーター養成講座の講師を引き受けながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を社内で定期的に行い委員会の内容等をホームでのミーティングで報告している。また国で出している12項目の身体拘束の定義を掲示し拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルに「禁止の対象となる具体的な行為」11項目を追加し、また項目を掲示して理解を深めている。法人に設置している「身体拘束委員会」の職員は、会議の内容をミーティングで報告して事例をもとに確認している。職員間で作った「10の禁句」をもとに言葉遣いに注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、社内研修やミーティング時など利用し学ぶ機会を作っている。また防止策についても行っている。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、研修内容をミーティングで報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時管理者が説明を行い確認を行っている。また不安や疑問点があればその都度説明をしています。改定時も説明し書面を配布しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族、地域の方にイベント時などアンケートをとり、その結果を受け止め次回反映させています。運営推進委員会時にホームに対する希望を聴き反映させています。	毎月「ほほ笑み通信」を個別に送り、暮らし、健康、介護計画に沿ったケアなどの詳細な項目で報告している。家族の意見は日誌や「利用者申し送り」に記載しているが、些細な思いも把握できるように個別の記録化を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも代表者に意見を言える環境にあり、管理者は職員の考えを尊重しそれをさらに皆で発展させるようにし、職場に反映させています。	月2回のミーティングで、各委員会からの報告や担当職員からの検討を議題に、意見を交換している。代表者は個人面談で勤務、研修、資格取得などの希望を聞き、意欲が持てるように配慮している。管理者も日々職員の相談に乗っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年は手当の引き上げがあり、職員の評価、事業所の評価をしており、常に職員が働きやすい環境をつくっている。女性が多いので家庭との両立がしやすいように勤務体制を考えています。そのことに職員も報いてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を定期的に行い、外部研修にも会社負担で参加してもらっています。また研修報告も積極的に行い研修結果を職場に反映できるよう努めています。資格取得のための勉強会を開いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を積極的に進め、日高管内およびHG協会に加盟しその機会に努めている。他ホームへの派遣研修や他の事業所からの受け入れも随時行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	些細な一言から本人の気持ちを判断し対応し、少し距離感を保ち本人とコミュニケーションをとる。また初期にはご家族にもできる限り訪問していただき、安心感を確保するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から性格や好み、生活ぶりについての情報を聴き家族の思いを受け止め、できる限り希望に添うように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時ご家族の希望を聴き、サービス支援計画を作成し安心して頂けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々職員間で情報の共有を図り洗濯や掃除、食事の支度など、共に行い支え合っている。業務の見直しで利用者様とアクティビティなど時間取っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時本人の状態を伝え、できる範囲の介助をして頂いたり、お便りで利用者の生活の様子をお知らせし、ご家族とともに共有しながら支え合えるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の来訪時に昔の話に耳を傾けるよう心掛けています。来訪名簿で年賀状なども出すようにしています。また事業所を利用できることなどを説明し、知り合いが困っているという情報も頂いたり、事業所の情報を発信して頂いています。	地元の利用者が多く、散歩中や地域行事に参加した時に知人から声をかけられたり、友人の来訪もある。畑仕事をしていた利用者にも、地域の畑の一部を借りて稲を育て収穫する支援もしている。外出計画の希望で馴染みの和食店で食事をすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知度のレベルが違い、変に思っている関係を修復したりトラブルが起きないようにそばに付いたりそれぞれの利用者の良いところを出してもらいお互い認めあえるような関係を作っています。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後の後処理を最後まで応じたり、利用者のご家族の状況によっては相談に乗ったり、愚痴を聴いたりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の行きたい場所、ご家族から好きなこと趣味など聞き支援し、アセスメントに記録、ミーティングで話し合い次の介護計画に反映させ家族と連携を取っています。	発語が難しい場合は、笑顔がないかなどの表情から声かけて思いを把握している。センター方式の「アセスメントまとめシート」に情報を追加しているが、その他のシートの見直しは十分とは言えない。	年に1回はセンター方式のアセスメントシートを全体的に見直し、変化なども分かるような情報の蓄積に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ファイルにまとめ確認できるよう努め申し送り、職員で共有し、さらに家族に確認しながら支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、体重測定、訪問看護、往診時気になることを報告し相談指示を仰いでいます。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者がモニタリングをし、本人や「ご家族の意向を取り入れ計画作成し、ミーティングで内容を発表し他の職員の意見を取り入れている。本人状態に変化あれば合わせて作り直しています。	担当職員が「アセスメントまとめシート」を参考にモニタリングを4か月毎に作成してミーティングで評価をしている。それらをもとに計画作成担当者は家族の意向を確認して生活援助計画を作成している。計画に運動した日々の記録については更に検討しているところである。	短期目標と援助計画の連動を再検討し、職員が短期目標に沿って、援助内容の変化なども記録できるような工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はD-3シートと比べて気づいたことをアセスメントシートに書き込み工夫したい事やご家族の要望など利用者も仕送りノートに記入し職員間で共有して介護計画に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援ハウスディサービス訪問介護などに加え多目的ホールや認知症カフェも実施され多くの交流の場も増えています。個人や家族の希望で外出される際に送迎なども行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	温泉、外食、理容室、花見、公園、地域のスーパーなど普段いけないところに月に一度は皆で出かけて買い物などできる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診(歯科、内科、皮膚科など)ご訪問看護、24時間いつでも相談、対応してくれる医療機関と連携し、安心適切な支援をしています。また必要であれば他地域の専門機関を紹介してくれます。	利用開始時の意向で、殆どの利用者は協力医の訪問診療を受けている。専門的な他科受診時には職員が同行して健康情報を伝えている。受診内容は個別の記録で経過を把握している。	

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態の把握に努め、何か変化があるときは24時間対応で指示を仰いでいる。相談も含め十分な体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と相談し退院後の対応方法を家族を交え、話し合いながら進めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人とご家族の希望を聴き、それを職員間で共有している。また、ご家族にはその都度説明して、理解をいただける様にしている。	重度化や終末期の対応指針を書面で説明し、「終末期に関する指定書」の意向を確認して同意を交わしている。延命治療以外は看取りが可能で、昨年は「ターミナルケア」を学び、主治医、看護師、家族との連携で、看取りケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で、毎年3回連続で救急救命講習などに参加し緊急に備えている。医師とは24時間体制で連携しており指示を仰げる。過去の事故を事例にして初期対応の確認をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火や避難訓練を定期的に行っている。夜間の想定にして訓練も行い消防署や地域住民も参加協力している。	年2回消防署員立会いで事業所周辺の支援ハウスと合同で利用者も参加して避難訓練を行い、住民は誘導後の見守りで参加している。2回のうち1回は日中を想定した地震・津波の訓練を実施し、近隣に備蓄品類を保管して災害時に備えている。	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時間を確認したり、体調確認したり、トイレは本人の様子を見て確認したり、移動するときさりげなく座ってもらったりと本人気持ちを大事にしながら対応しています。	法人や外部の接遇研修に参加している。職員と一緒に「10の禁句」を作成し、事業所内に掲示して業務の中でも確認している。個人記録はイニシャル表示など、工夫しながらプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	否定はせずできないことは相談し、問いかけには本人が応えられるような聞き方をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援する中でいま利用者様が望んでいることを優先し動作が終わるまで待ちながら次へと進めている。業務の見直して利用者様と時間を過ごすことができる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3か月に一度はカットしたり、昔からの割烹着を来てもらったり髪を縛ったり、ボタン、ほころび、ゆるくなった下着など買い替えたり支援している。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食べて頂くことを目標に好みや個人のカ、食べやすくして提供し、準備(皮むきなど)、かたづけ(お盆を置く)などして頂けるよう工夫している。	調理担当職員が、利用者の好みに配慮しながら食材を見て当日の献立を考えている。お正月に餅つきをしたり、誕生日に出張握り寿司などを楽しんでいる。出前で好きな物を注文することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量的な物はチェックシートで調整している。体調を考えミキサー食を取入れ量の増減を考え支援しています。塩分制限がある方には減塩した料理を提供し、医師にその都度確認して支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、義歯洗浄、うがいをし、就寝前に義歯洗浄、また週に2回義歯の除菌を行い歯科医の訪問診療も利用しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を促し、不意に立ったり落ち着きがなかったり、機嫌が悪いなどちょっとした変化を察知してトイレで排泄できるよう、さりげない声掛けに気を配り個々のサインを把握し、上手く伝えられない方の行動パターンを理解することで排泄できるよう努めています。	全員の排泄を記録して、日中は殆どの利用者が布パンツとパットで過ごしている。排泄間隔を把握して声かけする事で、入居後に多く利用者が排泄面で改善している。夜間もトイレでの排泄を基本に、睡眠状態に応じてベッド上でリハビリパンツを交換したりポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ、ヤクルト、飲むヨーグルトなど飲んで頂き食事、水分、果物などの工夫をしています。排泄パターン、最後に排便した日を把握し、薬やマッサージにて支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中入浴希望する方、入浴嫌いと思われる方にはCDで音楽を掛けながら脱衣所に来ていただき会話などコミュニケーションを取りながら入って頂き、お湯の温度が熱いのが嫌いな方には下げ、支援しています。男性スタッフだと拒む方には女性スタッフが対応して支援しています。	毎日午前中から午後までの時間帯で、週2~3回入浴できるように支援している。年数回、静内温泉の家族風呂に全員で出かけている。一緒に歌をうたったり入浴剤などを使用して、ゆっくり入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分から居室に行くまで食後は休んでもらったり、体調によって、時間を考えたり、居室温度の調節、湿度の調節、湯たんぽなど使用し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違いがないようチェックの仕組みを増やしたり、声に出したり、写真を付けたり、また症状で調整できる薬は医師の許可のもと職員が調整して支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事、誕生会、外食、音楽、ボランティアのお願い、社内行事の録画を見てもらったり、好きなおやつを食べてもらったりして楽しんで頂いている。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬は室内散歩を多くして、外出は月に一度、夏はそとに毎日出て頂いている。ご家族にも協力して外出して頂いている。	近隣の住宅地や生活館の方など、利用者に合わせてコースを変えて車椅子の方も一緒に散歩に出かけている。戸外で、外気浴をしながら焼き肉や流しそうめんをすることもある。お花見や静内神社祭りに出かたり、年間を通して買い物ツアーや外食を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ツアーと称して外食時に衣類、趣味の物、食べ物など選んで買って頂き、値段を確認しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で声を聴いてもらったり、年賀状を出したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に写真、居間にいろんな椅子、テーブル、ソファを備え 温度、湿度管理、光が入り明るく、難聴の人のためにスピーカの設置、浴室には電気ストープ、入浴台の交換など工夫をしている。	居間と食堂が独立した造りで、大きな窓に囲まれた居間には温かな光が注いでいる。居間から見える中庭では犬が飼われており、利用者に安らぎを与えている。ソファや椅子に各利用者の好きなクッションを置いて、ゆっくり落ち着いて過ごせるように工夫している。トイレや浴室前には、プライバシーに配慮してカーテンを取り付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車いすの空間、座る場所を多くとり、気の合う人は一緒にソファに座ってもらい、食堂と、居間の二つの空間を利用し、状況に合わせて移動し思い思いの場所で過ごせるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味のある人には作業台を作ったり、昔から使っていた家具ソファ、飾り物をおいてもらい、家族の写真など飾っている。温湿度計、加湿器を置き管理している。	各居室にクローゼットと棚、ベッドが備え付けられている。日めくりやカレンダーの他、家族の写真や手作りの作品が飾られている。使い慣れた鏡台や椅子、好きな縫いぐるみなどを持ち込み落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台の工夫、トイレ内の手すり、浴室の手すり、広い居室にはソファや、椅子を置き手すり代わりにして歩行してらっている。またテーブルに足代置きも作って工夫している		



## 目標達成計画

作成日：平成 27年 3月 20日

市町村受理日：平成 27年 4月 1日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において自治会役員の方の参加がない。もしくは地域住民代表の参加がない。	自治会役員・地域住民が気軽に参加でき、意見交換ができるようにする。	自治会役員の方に負担がかからないよう交代での参加を提案する。近隣住民の方には、事業所の活動内容や運営推進会議の内容を、お便り等で見て頂くことで身近なものとなるよう働きかける。	12ヶ月
2	10	運営推進会議に参加出来ない家族の意見が反映が不十分。各会議案内にテーマを記載し意見を集約してはどうか。	会議に参加できない家族の意見を事前に集約できる体制をつくる。	会議案内にテーマを記載したものを事前に送付して、来訪時等積極的に意見をお伺いし会議に反映する。	12ヶ月
3	23	センター方式のアセスメントを年に一度は見直してもらいたい、変化が分かるようになっていない。	定期的な見直しと変化がわかるような記録の工夫をして介護計画の見直しに活かしやすいようにする。	4ヶ月の介護計画見直し時に記録の整備を行い、状況の変化時は、色を変えて記入する事で変化に気づきやすい様にする。	6ヶ月
4	26	短期目標と援助計画の連動が不十分で、援助内容変化の記録も不十分。	日々の記録と援助計画を連動できるようにする。	援助計画のサービス内容等を日々の記録時に確認出来るようにチェックすることで、援助計画の実施状況が把握できるようにする。	6ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。